

# 第6回日独シンポジウム

## 公開討論会：「日独の現在を語る」

ドイツと日本はよく比較されて話題になる。その際ドイツは模範生として扱われ、それに比べて日本はとよく言われる。過去の反省、原発問題然りである（日本の勝ちを数える論者もいるが）。現在ドイツの政治は難民問題を境にして大きな岐路にさしかかっている。それに比べて日本の安倍政権の安定ぶりは際立っている。これらについて比較をしながら、分析をしてみたい。

日時：11月5日（土）午後2時から4時まで（懇親会あり）

場所：桜美林大学四谷キャンパス（JR千駄ヶ谷駅から徒歩5分）

〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷1丁目1-12

会費：500円（学生無料）

主催：桜美林大学北東アジア東アジア総合研究所

### テーマ

共通のテーマ：歴史認識

#### 日本

- 1) 安倍政権（憲法解釈など非民主的な政治およびアベノミクスの不成功にもかかわらず支持率が落ちない）
- 2) 原子力と再生可能エネルギー（時代の流れに逆行する日本）

#### ドイツ

- 1) 難民（世紀の挑戦にドイツはうまく対応できるか）
- 2) 新右翼の台頭（ネオナチとは違う）とメルケル政権の行方（近い将来社民党政権が誕生するか）
- 3) エネルギーシフトの行方

### パネラー

- 1) スヴェン・ザーラー（上智大教授、フリードリッヒ・エーベルト財団日本代表）
- 2) 住沢博紀（日本女子大教授、「現代の理論」発行人）
- 3) 仲内節子（市民運動家）
- 4) 石田憲（千葉大教授）
- 5) 福澤啓臣（元ベルリン自由大学准教授）

ご連絡・お問合せ・申し込み  
桜美林大学北東アジア総合研究所

TEL & fax 042-704-7030

E-mail [n-e-a@obirin.ac.jp](mailto:n-e-a@obirin.ac.jp)

または [kawa22@obirin.ac.jp](mailto:kawa22@obirin.ac.jp)